

平成22年度活動報告



特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構

<http://www.npo-cemi.com/>

平成 22 年度活動報告目次

～ 東京本部 ～		頁
■ 地球温暖化観測に関する連携拠点運営支援		1
■ 遠地津波等の防災対策に関する検討		2
■ 火山防災体制の構築に関する検討		3
■ 庄内川流域における地域防災力向上の支援活動		4
■ 円山川流域における防災講習会等の企画運営支援活動		5
■ 阿武隈川流域における防災ゼミナールの開催支援		6
■ 高校生等が自ら行う三宅島砂防の魅力発見型防災教育の推進		7
■ 水害時の避難に関するあり方の検討		8
■ 平成 22 年 7 月豪雨災害（岐阜県可児市・八百津町）調査		9
■ 豊岡市 FM ジャングル 防災ワンポイント	■ : 受託事業	10
■ 佐用町水害調査と久崎地区水防災力向上支援	■ : 自主事業	11
■ 災害とモバイル IT 勉強会		12
■ 平成 22 年度の火山噴火およびその対応調査研究他		13
～ 北海道支部 ～		頁
■ 沙流川流域における住民主導型環境防災活動の支援		15
■ 豊平川上流地区における地域防災力向上の支援活動		16
■ 雄阿寒岳噴火対応計画検討会		17
■ 樽前山火山防災に関する連携のための活動支援		18
■ JICA 地域別研修「中南米地域 火山防災対策能力強化コース」		19
■ 岩見沢市における水害に強い地域づくり推進企画立案		20
■ 樽前山周辺地域における防災啓発活動		21
■ 札幌市清田区北野地区防災研究会の運営支援		22
■ 伊達市防災アドバイザー		23
■ 災害情報研究会の企画・運営	■ : 受託事業	24
■ 親子向け樽前山麓学習会「樽前山タイムトラベル」	■ : 自主事業	25
■ 北海道流域環境防災研究会の企画・運営		26
■ 広報あしょろ「町民防災講座」原稿執筆支援		27
～ 関西支部 ～		頁
■ 小中学校における出前授業		28
■ 地域住民・市民団体・企業等を対象とした啓発講座と野外学習行事	■ : 自主事業	29

地球温暖化観測に関する連携拠点運営支援

気象庁と環境省は、地球温暖化分野の連携拠点（地球温暖化観測推進事務局）を運営しており、CeMI 東京では同事務局の気象庁が担当する運営支援業務に携わった。

主な共同研究及び活動結果として、以下の業務を行った。

- ・ワーク・ショップ（森林における観測の最前線）
- ・ワーキング・グループ、以下 WG（温室効果ガス観測データ標準化 WG : 3 回開催、気候変動影響統計整備 WG : 3 回開催）
- ・WG 報告書概要版作成、専門家会合（放射観測機器較正に関する専門家会合）

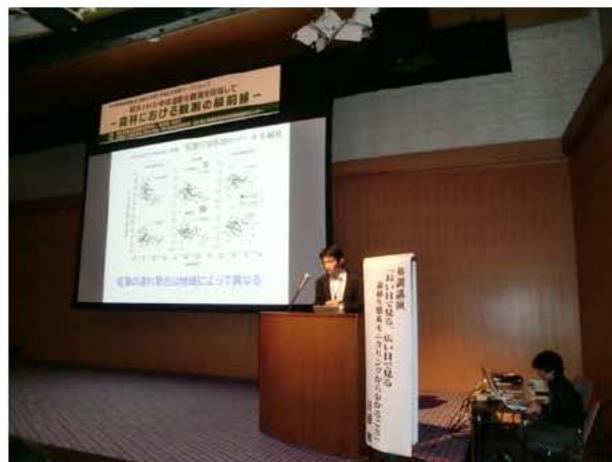
以上の開催支援業務と、

- ・地球温暖化観測推進委員会開催主催（3 回開催）業務

より、地球温暖化観測に関わる政府関係府省・機関間、分野間の連携推進と、関係府省・機関連絡会議（2 回開催）と地球観測推進部会（2 回開催）に提言。

◆ 地球観測連携拠点(温暖化分野) 平成 22 年度国内ワークショップ

「統合された地球温暖化観測を目指して—森林における観測の最前線—」



【日時：平成 22 年 11 月 12 日 場所：千代田放送会館ホール】

遠地津波等の防災対策に関する検討

平成22年8月26日の中央防災会議「災害時の避難に関する専門調査会」において、「津波防災に関するワーキンググループ」の設置が決定された。C e M I は、現状の津波対策を再整理し、課題や問題点を明らかにし、近地津波と遠地津波それぞれの特性を踏まえた改善策を検討した。

ワーキンググループでは、①津波避難の適切な実施に必要な対策のあり方、②遠地津波を想定した津波対策、③津波に関する知識の普及啓発、学校防災教育、避難訓練等のあり方、④漂流物の発生防止対策等について検討する趣旨が述べられ、津波の概要、これまで受けた主な津波被害、津波対策の現状と課題について資料作成を行った。また、津波対策の現状を把握するため、岩手県、宮城県および岩手県大船渡市、宮城県石巻市、名取市、女川町の2県3市1町を対象にヒアリング調査を行い、①津波防災情報ニーズと津波ハザードマップについて、②避難指示・勧告について、③津波が到達するまでの時間を活用した対応について、④沿岸管理・防災教育について課題を抽出し、今後の津波対策について検討した。



写真 第1回 津波防災に関するワーキンググループ

火山防災体制の構築に関する検討

火山防災体制の構築を図るため、平成19年度に「火山情報等に対応した火山防災対策検討会」で示された「噴火時等の避難に係る火山防災体制の指針」に基づき、①協議会の設置推進、②火山ハザードマップの整備推進、③避難計画の策定推進に向けた検討を行った。また、避難計画策定のためのケーススタディとして、2011年1月に噴火した霧島山（新燃岳）を内陸型火山の事例に避難計画策定ガイドラインおよび避難計画を作成・検討し、島嶼型では伊豆大島火山の避難計画事例を検討した。一方、大規模火山災害についても、内閣府（防災担当）で勉強会を開催し、関係機関および有識者とともに意見交換した。



写真 内閣府で開催した大規模火山防災の勉強会



写真 霧島山（新燃岳）コアメンバー会議

庄内川流域における地域防災力向上の支援活動

昨年に引き続き、減災に向けた取組みを推進するために設立された「名古屋水防災情報共有推進連携会議」及び「同ワーキング」を実施した。この会議では、庄内川河川事務所、名古屋地方気象台、名古屋市をはじめとする関係機関間において、河川の水位や気象予報、避難の情報、情報共有の現状等を整理し、水災害時の避難のあり方など、減災への取組みを行っており、ここで議論された結果を踏まえて、社会実験を行った。

社会実験の内容としては、インターネットを活用した掲示板等による情報提供として、水防災情報ポータルサイトの構築、地域住民とともに地域特性を踏まえた避難方法を検討するために住民参加型のワークショップの開催、防災関係機関の情報共有のためのヴァーチャル会議、また、名古屋市職員に対しての危機管理研修などを行った。特に、住民参加型のワークショップの中でも、名古屋市北区川中学区においては、地区全体を対象に水防災訓練を実施、報道機関も含めて、川中小学校に1泊した避難所体験も行った。

ヴァーチャル会議

川中学区水防災訓練



名古屋水防災ポータルサイトの画面



名古屋市危機管理研修



円山川流域における防災講習会等の企画運営支援活動

【防災講習会】

本業務では、兵庫県豊岡市円山川の防災担当職員を対象に、水害に対する防災意識および防災対応能力の向上を目的とした防災講習会の実施・運営を行った。

第1回から第6回にわたり実施した防災講習会では、業務当初に年間カリキュラムを作成し、受講対象者や地域特性に配慮したテーマを題材とした基調講演の企画・提案を行った。また本業務の総括として開催された「とよおか環境・防災フォーラム」では、同フォーラムの企画・運営を行った。

【住民ワークショップ】

豊岡市高屋地区では、地域防災力向上の取り組みの一環として2回の住民ワークショップを行った。ワークショップでは、地区の危険個所や被災回避のための方法について話し合い、その成果として「地域防災マップ」を作成した。



【防災講習会】
開催：全6回開催



【職員初動対応机上演習】
日時：平成23年2月
場所：じばさん TAJIMA2階 多目的ホール



【住民ワークショップ】 豊岡市高屋地区
日時：平成23年1月
場所：豊岡市高屋公会堂



【とよおか環境・防災フォーラム】
日時：平成23年2月
場所：出石文化会館 ひぼこホール（大ホール）

阿武隈川流域における防災ゼミナールの開催支援

阿武隈川流域の住民を対象に地域の自主防災意識及び地域防災力向上を目的とした防災ゼミナールを行った。

防災ゼミナールは、「専門家による基調講演」、「自助・共助による地域防災力向上を図るための地元の水害危険箇所の徒步点検」、「図上訓練」など、開催回数に合わせたステップアッププログラムを取り入れ、本年度は、須賀川市、伊達市、郡山市を対象に防災ゼミナールを実施した。特に2年目の開催となる郡山市では、水害時の避難のあり方について話し合いを行い、地域独自の「手作り防災マップ」を作成した。



郡山市防災ゼミナール
日時：平成22年11月
場所：郡山市水門町集会場

伊達市防災ゼミナール
日時：平成22年11月
場所：伊達市保原町町民ホール
大会議室



須賀川市防災ゼミナール
日時：平成22年11月
場所：須賀川市産業会館2階
研修室

高校生等が自ら行う三宅島火山砂防の魅力発見型防災教育の推進

三宅島における高校生等を対象とした火山防災教育推進事業は、平成 20~21 年度に文部科学省の競争的資金を受け、三宅小学校、三宅高等学校を対象にした防災授業の実施、三宅高校の教員研修カリキュラムの作成と実施、防災教育副読本の作成・配布を行ってきた。平成 22 年度は、広く継続的に防災や火山についての知識を深めることを目的に、三宅高等学校等から依頼のあった、防災教育副読本のリーフレット化、防災教育授業の継続実施、小中高一貫防災教育の実施を行った。



図 作成した三宅島火山の魅力リーフレット（昨年作成した防災教材副読本とデザイン、内容ともに合わせることで、セットで活用できるよう工夫した。）

水害時の避難に関するあり方の検討

近年頻発している豪雨災害等の水害において、避難がどのように行われたのかを検証し、垂直避難を含めた避難のあり方について、東京大学等と共同で検討を行った。

【検討項目】

- ・水害時の避難事例の収集
- ・人的被害の発生メカニズムの検討
- ・被災回避行動モデルの検討
- ・避難の判断のために必要な情報の検討
- ・情報提供のあり方の検討 等

情報提供のあり方の検討では、住民に認識されにくいハザードマップ等に代わって、以下のような最低限の情報だけを記載した判断マニュアル（チラシ）を作成した。このチラシでは、「自宅の浸水危険性」「情報の入手先」などの避難に必要な情報を限定して記載し、試作版として住民意見を聴取している。

主な住民意見として、「わかりやすいが認知度を高めてもらうためには、自らが記載する項目があるとよい」といった意見も出された。



避難判断マニュアル（表面）

避難判断マニュアル（裏面）

平成 22 年 7 月豪雨災害（岐阜県可児市・八百津町）調査

平成 22 年 7 月 15 日（木）～16 日（金）にかけて、梅雨前線の影響による大雨で岐阜県美濃地方を中心に大雨が降った。特に可児市、八百津町の周辺地域を中心として豪雨となり、15 日 18 時～19 時の 1 時間に 76mm という記録的降雨を観測した。

この豪雨により、水害・土砂災害による人的被害や浸水被害が発生し、可児市のアンダーパス付近では 40 台を越す車両が流出するなどの被災が確認されたため、CeMI では現地の状況調査を行った。



写真-1 可児市土田地内水害
(岐阜県検証委員会資料より)



写真-2 八百津町野上地内土砂災害
(岐阜県検証委員会資料より)



写真-3 可児市アンダーパス浸水箇所

※周辺地形をみると可児川が氾濫した場合、このアンダーパスに水が集まつてくるような地形となっており、ハザードマップ上でも危険箇所として記載されていた。



写真-4 八百津町野上地内土砂災害箇所

※野上地区以外でも土砂災害が発生しており、他地区では裏山の沢水がいつもと違う様子であったことに気付いた住民が自主避難し、その後に土石流で家屋が流出している。

豊岡市 FM ジャングル 防災ワンポイント

兵庫県豊岡市で市民の防災意識を向上させることを目的として「豊岡市FMジャングル 防災ワンポイント」として豊岡市が運営するラジオ局「FMジャングル」が防災に関するラジオ放送を行った。

2010年7月から10月にかけて放送され、国内で防災研究や対策の最前線に立つ方々に出演していただき、災害時に適切な行動ができるよう、毎日5分、市の防災活動・対策、地震、水害、土砂災害など、毎週テーマを設けて市民へ防災に関するワンポイントを伝えた。市民からの反響も大きく、「防災というと嫌なイメージがあつたが、ラジオで次の防災に繋げるような考え方として前向きになれた」等の好評を得た。



【6月29日収録：藤井先生】



【7月21日収録：河田先生】



【7月25日収録：池谷先生】



【8月17日収録：山崎 NHK 解説委員室副委員長】

佐用町水害調査と久崎地区水防災力向上支援

2009年8月に発生した兵庫県佐用町水害について住民の防災行動等を東京大学、東洋大学と共同調査し、次に備えて必要な取組の提言（紀要論文）を作成した。さらに上記調査で交流を持った佐用町久崎地区自治会と調査後も防災への取組について専門家として助言等を行っている。

また平成23年3月から年度内を想定し、久崎自治会との共同プロジェクトとして住民の水害対応力を向上させるワークショップを現在実施している。

住民ワークショップの成果としては、

- ① 住民が作る避難マップ
 - ② 自主防災行動ルールブック 素案
- を念頭においている。

久崎地区 住民ワークショップ[®](隣保)

実施方針 案

CeMI 松尾

災害とモバイル IT 勉強会

1. 目的

近年 モバイル通信技術の進展は、日進月歩でありわが国の国民の大半は、携帯モバイルを日常的に活用している。また最近は、スマートフォン等の利用者も増えており多様なモバイルITツールを国民は携帯しつつある。このような中で集中豪雨、地震・津波などの自然災害は、相変わらず全国各所で発生し我々国民の命を奪い、また脅かしつつある。防災情報を的確に国民に伝えることは、減災に向けて最優先事項にあるが、現状は十分であるとは言い難い。

防災機関から国民に防災情報を伝達する手段は、自治体からの防災無線・広報車や報道機関によるテレビ・ラジオさらに通信事業者のモバイルITルートがあり、それに特徴がある。災害発生地域の滞在者・居住者に対し、ピンポイントの被災回避行動に結びつく情報を伝達出来るツールは、モバイルITが有力であると考える。

本勉強会は、モバイルITの推進に係る携帯電話事業者と防災情報の出し手機関が集い以下のことを目標として平成22年に立ち上げ定期的に実施している。

① 相互理解の促進

モバイルITの現状と今後について情報の伝え手、出し手機関が理解する。

情報の伝え手、出し手機関の役割と提供情報の現状と今後を理解する。

② 国民向け防災情報提供ツールのあり方

①を前提にあまねく国民への防災情報提供についてモバイルITの活用イメージを検討し共有する。

③ その他 必要とする事項

2. 参加機関等

携帯キャリアー 3社

報道機関

防災機関

自治体

CeMI

平成 22 年度の火山噴火およびその対応調査研究他

【Eyjafjallajökull 火山調査】

CeM I 環境・防災研究所では、2010年3月20日に噴火が開始したアイスランドのエイヤフィヤトラヨークトル (Eyjafjallajökull) 火山の現地調査およびロンドン VAAAC におけるヒアリング調査を実施した。航空路線に大きな影響を与えた本噴火事例は日本でも起りうることから、今回の噴火対応の現状や課題について調査した。

その結果、アイスランド大学、アイスランド気象庁、地域住民等の連携がよくとれていること、欧州での火山灰監視観測網の強化が進められる動きであることが分かった。また、火山灰濃度の濃淡による飛行範囲の決定等、先進的な対応がとられたことも明らかとなった。



図 アイスランド気象庁でのヒアリング調査の様子（左）とエイヤフィヤトラヨークトル火山周辺市町にある他国語対応型の火山ハザードマップ（右）

平成 22 年度の火山噴火およびその対応調査研究他

【霧島山(新燃岳)噴火調査】

霧島山（新燃岳）では平成 23 年 1 月から、およそ 300 年ぶりに本格的なマグマ噴火が発生し、周辺市町では避難勧告が発表される等の対応が発生した。これを受け、1 月 29 日、30 日に霧島新燃岳噴火の現状とその被害状況について、実地調査を行った。現地の行政、住民の方々から、今回の噴火に対する意見を伺った結果、「火山現象およびその被害に対する情報」と「火山対策」に関する情報の必要性が多く挙げられ、現状の噴火対応に役立つよう、火山学や防災学の知見を基に整理、C e M I のホームページからの情報発信を行った。



平成 22 年度の火山噴火およびその対応調査研究他

【避難情報文作成支援システムの作成と表彰】

「CeMI 環境・防災研究所」は、避難情報発信システムの開発チームを組み、2 年前から名古屋地方で取り組んでいる「名古屋水防災情報共有推進連携会議」における名古屋市の“避難情報文作成支援システム”の構築を行った。その結果、研究所の自主研究事業として行ったことに対し、名古屋市長より、消防功労者表彰を受けた。



図 感謝状

沙流川流域における住民主導型環境防災活動の支援

沙流川の流域住民や防災関係機関と連携し、住民主導による豊かで安全な流域未来をつくるための活動の支援を行った。

平成 17 年度から継続している「豊かで安全な沙流川流域未来をつくる会」では、住民部会において流域における住民活動の内容を共有するとともに、平取町貫気別地区では住民、地元自治体および河川管理者が協働して、住民手づくり防災マップを活用したハザードマップモデル案を制作した。また、流域住民による自主防災組織構築を促進させるため、自主防災組織が構築されている地域、されていない地域の代表者や流域自治体にヒアリング調査を行い、有効な構築の手法や促進方法などを提案した。日高町富川地区では、特に沙流川の水害に警戒が必要な 7 町内会が合同で自主防災組織構築に向けた勉強会を開催し、その企画・運営を行った。

さらに、流域の防災関係機関で組織する沙流川ワーキングでは、平成 21 年以降に発生した国内の水害を教訓に、沙流川流域における防災情報伝達手法の検討を行い、より安全でスムーズな情報伝達の方法を提案した。

今後はこれら自主防災組織の構築促進やハザードマップの制作、防災情報伝達方法などのモデル案を活用して、住民・地元自治体・防災関係機関協働で豊かで安全な沙流川流域づくりの具体的な取り組みを行っていく予定である。



第 1 回住民部会



流域住民・自治体・関係機関合同の現地検討会



日高町富川地区住民自主防災勉強会



第 1 回沙流川ワーキング

豊平川上流地区における地域防災力向上の支援活動

札幌市内における風水害に対する市民の防災意識を調査するとともに防災情報を広く伝達するために放送事業者と連携した取り組みのあり方について検討を実施。

防災意識調査においては、インターネットアンケート調査を実施し、現役世代を中心とした防災意識の把握を行った。この調査から、防災講演会等の啓発に対してある程度の関心や興味はあるものの、十分に周知されていないために参加機会を逃している方や講演会の日時設定により参加できていない方が多いことが明らかとなり、今後の防災啓発の取り組みではさらなる工夫が必要であることが示された。

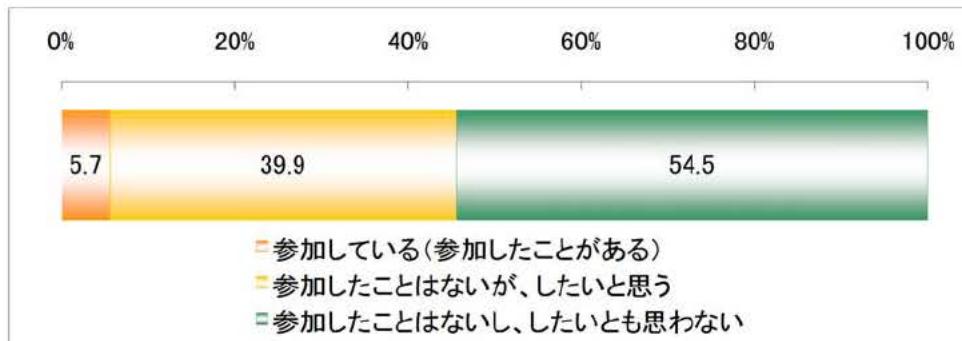


図 1.防災講演会等への参加経験および参加意志 (N=1500)

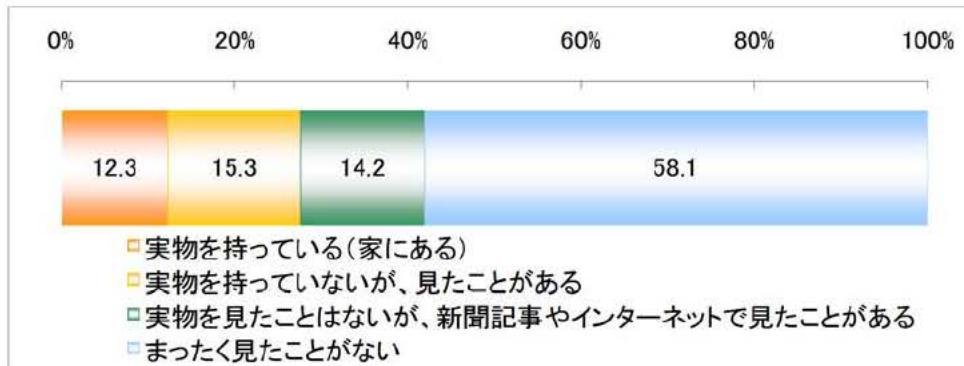


図 2.札幌市洪水ハザードマップの認識率 (N=1500)

雌阿寒岳噴火対応計画検討会

2006 年 3 月の小規模噴火を機に、噴火時防災対策関係機関の連携を火山活動平穏期に深め、機関取り組みを共有することを目的に設立。平成 22 年度は検討会ならびに事務局会議、ワーキングの企画・運営を実施。

内容としては、火山情報共有のあり方、行政機関による防災訓練のあり方、防災啓発の取り組み等を含んだ噴火対応行動指針（案）の作成、防災ガイドブックの作成などを実施。



写真 1. 事務局会議の様子



写真 2. ワーキングの様子



写真 3. 検討会の様子

樽前山火山防災に関する連携のための活動支援

樽前山の大規模噴火では火碎流・泥流等の発生で周辺住民の生命も脅かすとともに北海道経済への影響も甚大となる。特に苫小牧周辺も含め避難対象となる企業・団体・地域の住民は、10数万にのぼるほか近傍の主要道路・千歳空港・JR・苫小牧港など北海道と我が国の交通・物流輸送網の運行対応など多くの課題を有している。また、中規模噴火でも長期間にわたって繰り返される降灰により、交通・物流への障害、水質汚染、住民の健康等に多大な課題が発生する。泥流に備えた局所的な住民避難や交通規制も発生する。

このような樽前山における有事の際に迅速かつ円滑に対応すべく、平成 17 年「樽前山火山活動時における初動対応検討会」を設置、平成 20 年度には「樽前山火山活動時における防災対応検討会」と名称を改め、樽前山における火山防災対応の検討を行ってきた。そして、昨年度、一定の成果があったとして休会している。しかし、樽前山の火山噴火対応に備えた連携活動は今後も継続して行うものとして、今年度は、主要機関との連携調整会議や共通地図作成に向けた講習会、図上訓練等を実施し、C e M I 北海道支部はこれら運営支援を行った。



共通地図作成講習会の様子①



共通地図作成講習会の様子②



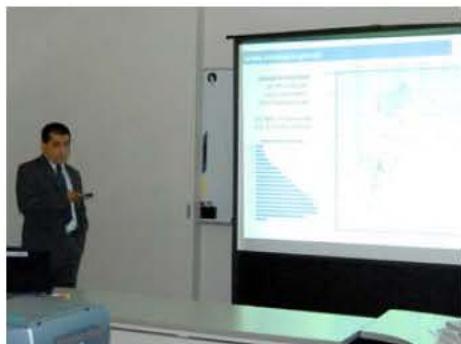
図上訓練の様子①



図上訓練の様子②

JICA 地域別研修「中南米地域 火山防災対策能力強化コース」

中南米地域の火山災害を有する国を対象とし、火山防災の現場に携わる行政官や学識者の育成を目的とした研修を独立行政法人国際協力機構（JICA）とともに実施した。チリ、エクアドル、グアテマラ、コスタリカ、コロンビアの 10 名の研修員は、約 1 カ月にわたる講義やディスカッション、現地視察や住民との意見交換を通じ、日本の減災対策や体制整備、人材育成の実例を学んだ。そして、行政や地域コミュニティを連携させた、自国における防災力向上プランを作成した。特に今年度はコロンビアのネバド・デル・ルイス火山噴火で起きた大規模災害から 25 周年ということもあり、研修員の熱意も高く、日本をはじめ他国の状況や取り組みについて理解し合えたことが大変有益であったとの評価が得られた。



カントリーレポート



講義の様子



有珠山現地研修（西山山麓散策路）



十勝岳現地研修（十勝岳火山砂防情報センター）



国際ワークショップ

日 程：2010 年 6 月 21 日～7 月 23 日

研修員：チリ 2 名、エクアドル 3 名、
グアテマラ 2 名、コスタリカ 1 名、
コロンビア 2 名

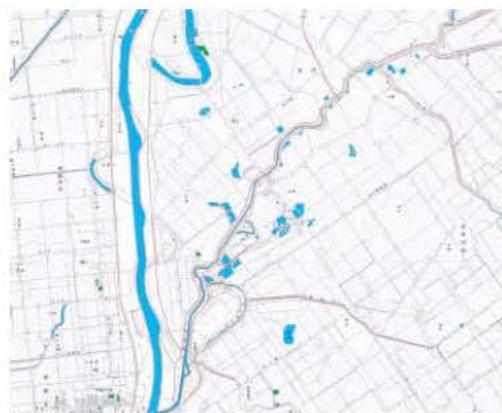
岩見沢市における水害に強い地域づくり推進企画立案

「石狩川中流域の旧美唄川合流点周辺地域」は、平成 18 年 3 月に栗沢町とともに岩見沢市に編入合併した。また、石狩川河川整備計画において、石狩川中流遊水地計画が位置づけられ、この地域はその候補地になっている。また、岩見沢市自体も石炭輸送の大動脈を支える都市から、道路を中心とした広域交通運輸拠点へと変貌するとともに、札幌のベットタウンを内包する田園都市へと貌を変えつつある。そして、これら地域は過去に幾度も水災害を経験してきた土地である。

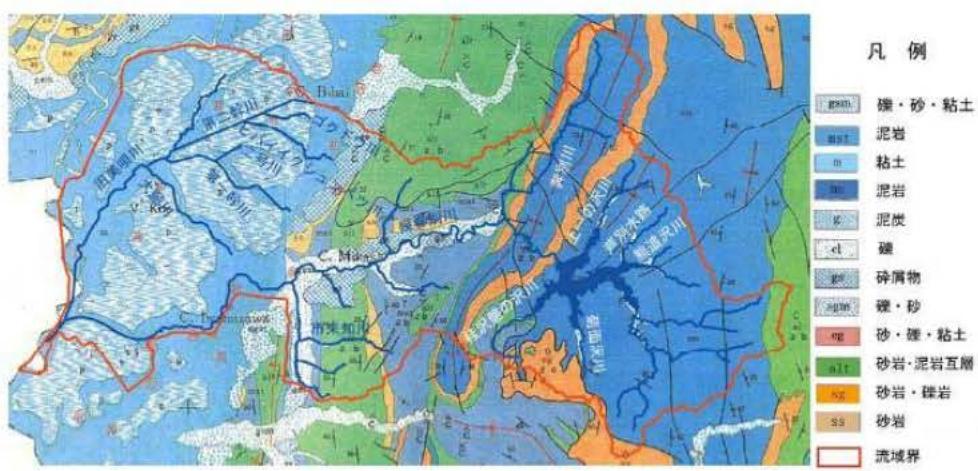
石狩川中流域の永続的な豊かで安全な地域構築のために、地形や土地利用等の地域特性、高齢化進行等の社会特性、水害被害の特性を考慮し、治水事業をきっかけとした、地域における自助・共助・公助による水害に強い地域づくりを推進するための企画立案を行った。



岩見沢市周辺の変遷（明治 29 年）



岩見沢市周辺の変遷（平成 15 年）



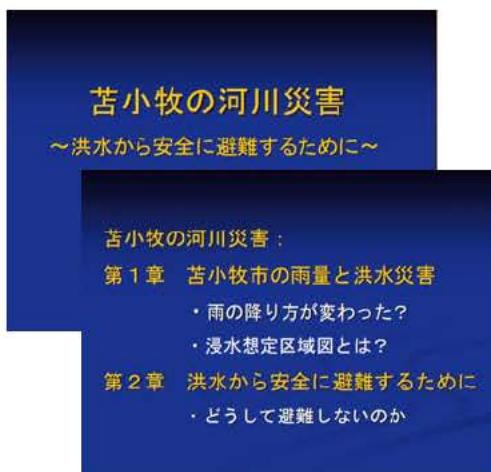
(出典：「土地分類図」国土庁土地局（昭和 52 年）)

岩見沢市 3 地区の地域特性

樽前山周辺地域における防災啓発活動

樽前山周辺地域における地域防災力の向上を目的としてこれまで地元自治体・防災関係機関で行ってきた防災教育検討の活動が継続され、平成 22 年度においても各自治体において住民に対する防災啓発の取り組みが行われ、その企画・運営支援・講師派遣などを行った。

苫小牧市では5年目となる市民防災講座、白老町では3年目となる町民防災講座、千歳市では市の全町内会による町内会長研修会において防災に関する勉強会をそれぞれ実施した。



苫小牧市民防災講座 講演資料



平成 22 年度白老町民防災講座



白老町民防災講座 講演資料



平成 22 年度千歳市町内会長研修会

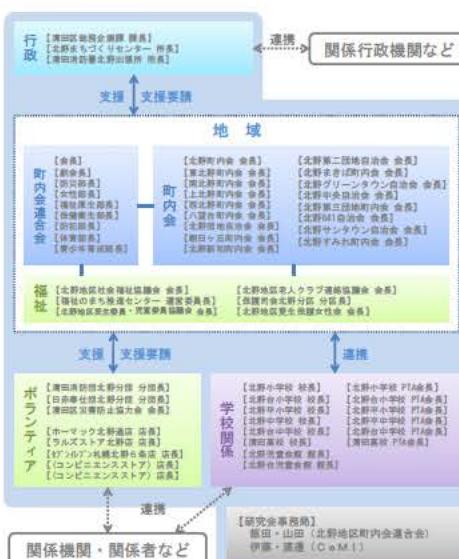
平成 22 年度 活動報告（北海道支部）

札幌市清田区北野地区防災研究会の運営支援

札幌市清田区にある北野地区において、北野町内会連合会主体の「北野防災研究会」の設立および運営の支援を行った。研究会には町内会連合会の役員、17 単町内会の会長をはじめ、地域の活動を支援するため、地域にある 3 小学校、2 中学校、1 高校の校長、PTA 会長や清田区災害防止協力会などのボランティア団体、地域にある大型店舗をもつ企業、清田区役所などが参画した。

研究会では、設立総会、地域を知るための講演、演習、DIG による地域自主防災における課題出しなどを行うとともに、幹事会において、地域の古者を招いての座談会などさまざまな取り組みを実施した。

今後は地域で継続的に研究会が実施されるためのノウハウの蓄積や各単町内会における自主防災の取り組みの推進を行っていく予定である。



北野防災研究会構成イメージ



北野防災研究会設立総会



「地域を知る」座談会



第3回研究会 DIG

伊達市防災アドバイザー

昨年度に引き続き、今年度も北海道伊達市自治防災課を支援する次の業務を行った。

1) 広報だて防災コラムへの寄稿

2010 年 6 月号 日頃から災害に備えましょう⑫～津波編その 2～

2010 年 9 月号 日頃から災害に備えましょう⑬～噴火編その 5～

2) 有珠山現地見学会

2010 年 10 月 15 日 有珠火山防災会議協議会参加機関の防災担当者対象：有珠山北山麓、胆振線鉄橋遺構公園から 1977-78 年噴火記念公園までの区間を歩く

2010 年 10 月 16 日 伊達及び周辺自治体の市民対象：有珠山頂火口原東部を歩く

3) 若手職員研修

例年講演か図上訓練を実施していた職員研修は、“有珠山頂噴火に備えて”というテーマで初めて丸 1 日を使って 10 月 29 日にコースはロープウェイ山頂駅から火口原東部を巡り、有珠南登山道を下るコースで実施した。参加対象者は 2000 年噴火以降に採用となった職員のほぼ全員 18 名であり、活発な質疑が交わされた。

4) 市民防災講座

2010 年 10 月 29 日 津波災害に会わないために



10/16 市民対象の現地見学会



10/29 若手職員対象の野外研修

災害情報研究会の企画・運営

防災情報の相互理解・改善ならびにわかりやすく伝えるための方策など、それぞれの立場と情報の伝え方や情報共有のあり方などを研究。

道内の放送各局、新聞社と国・道の関係機関が参画。

本年は、以下のテーマで研究会を 3 回開催した。

【第 15 回研究会】

テーマ：チリ中部沿岸地震津波への対応

日時：平成 22 年 4 月 21 日（水）

場所：北海道テレビ

【第 16 回研究会】

テーマ：ゲリラ豪雨

日時：平成 22 年 6 月 2 日（水）

場所：北海道文化放送

【第 17 回研究会】

テーマ：豪雨災害～道民に情報を的確に伝えるために～

日時：平成 22 年 11 月 30 日（火）

場所：札幌テレビ放送

親子向け樽前山麓学習会「樽前山タイムトラベル」

地域に暮らす親子を対象として樽前山と火山防災を楽しみながら学んでもらうこと目的とした学習会を行った。

砂防施設や過去の噴火噴出物を実際に見て触れることができる保存露頭、苫小牧市博物館、樽前山火山対策防災拠点において、専門家の解説や実験を通じて、この地域の火山と森がもたらす恵みと災害の両面を子どもたちにもわかりやすく伝えた。



宇井理事の講話



錦多峰川2号遊砂地



苫小牧博物館学芸員の解説



修了証を手に先生方と記念撮影

日 時：平成 22 年 7 月 25 日（日）8：45～15：30

参加者：23 名（小学生 6 名、大人 17 名）

開催場所およびプログラム：

■ 苫小牧市博物館

- ・講話『苫小牧のまちを作った火山の話』／・博物館展示見学

■ 錦多峰川 2 号遊砂地

- ・樽前 1667 年噴出物の保存露頭での学習『火山ふんしゅつ物からわかること』
- ・中規模噴火災害と砂防施設の役割『災害をへらすとりくみ』
- ・巨礫での学習『ふん火のちから』
- ・樽前山のめぐみ — 『樽前山の恵み・森や自然のお話』

■ ポロト湖畔

- ・支笏火碎流の露頭での学習『4 万年前のできごと』

■ 樽前山火山対策防災拠点施設

- ・展示解説、火山噴火実験『ふん火を再現してみよう』

北海道流域環境防災研究会の企画・運営

平成 16 年度に北海道内の河川防災に関する機関が集まり、流域の環境防災に関する協議を行う場として設置された「北海道流域環境防災研究会」は、平成 21 年度までしばらく各現地ワーキング（豊平川 WG、沙流川 WG）を優先して実施していたが、本州各地で発生している水害の評価を共有し、教訓を道内の減災に活かしていくため、規約を現状に即して一部改正して第 7 回の本研究会を行った。

また、平成 22 年 7-8 月には北海道内において多くの被害を伴う水害が発生したため、被害状況とその対応を共有するため、研究会のコア機関が参加する運営委員会において、情報共有を図った。



第 7 回 北海道流域環境防災研究会



平成 22 年度 第 1 回運営委員会

広報あしょろ「町民防災講座」原稿執筆支援

平成 19 年度の雌阿寒岳噴火対応計画検討会 地域防災力向上推進グループにおいて提案され、以降 3 年余りにわたって継続的に実施されている足寄町広報誌『広報あしょろ』内の「町民防災講座」に対する原稿提供の支援を行った。雌阿寒岳の火山防災をはじめ、足寄町で発生し得るさまざまな災害のメカニズムやそれに対する関係機関の対応などを連載してきたが、平成 22 年度はこれらの災害に対して地域住民が備えるべき心構えや、具体的な備えについて、有識者からのアドバイスというテーマで 1 年間連載した。当機構では、執筆者の提案と調整を行っている。

平成 24 年度には雌阿寒岳周辺地域において、北海道火山防災サミットが開催される予定もあり、今後も広報あしょろへの原稿執筆支援は継続していく予定である。

広報	講座	担当者	所属	テーマ
H20	2月 第1回	松尾 一郎	NPO環境防災総合政策研究機構 理事	町民防災講座開講 わがまちを知る・減災まちづくりの心得
	3月 第2回	新谷 賢	北海道大学 名誉教授	雌阿寒岳の噴火と災害①
	4月 第3回	宇井 忠英	北海道大学 名誉教授	雌阿寒岳の噴火と災害②
	5月 第4回	岡田 弘	北海道大学 名誉教授	川と災害①
	6月 第5回	黒木 幹男	元北海道大学准教授	川と災害②
	7月 第6回	黒木 幹男	元北海道大学准教授	地震災害①
	8月 第7回	高橋 清	北見工業大学准教授	地震災害②
	9月 第8回	高橋 清	北見工業大学准教授	土砂災害①
	10月 第9回	丸谷 知己	北海道大学 教授	土砂災害②
	11月 第10回	丸谷 知己	北海道大学 教授	自主防災組織は、なぜ必要か①
	12月 第11回	松尾 一郎	NPO環境防災総合政策研究機構 理事	自主防災組織は、なぜ必要か②
	1月 第12回	松尾 一郎	NPO環境防災総合政策研究機構 理事	雌阿寒岳噴火に備え、「情報伝達と避難対応」
H21	2月 第13回	亀井 伸吾	帯広土木環境企画課調査室	雌阿寒岳の火山活動経過と噴火警戒レベル
	3月 第14回	一	札幌市気象台・釧路地方気象台	雌阿寒岳噴火対応取り組みについて
	4月 第15回	小林 秀夫	池北3町行政事務組合消防本部 防火課長	災害対策用機械の貸し付けについて
	5月 第16回	一	北海道開拓局帯広開拓建設部	十勝東部森林管理署におけるオンセット周辺事業の紹介
	6月 第17回	大門 一哉	十勝東部森林管理署 治山課長	国立公園の中の雌阿寒岳
	7月 第18回	玉谷 雄太	釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所	雌阿寒岳と足寄町
	8月 第19回	一	足寄町巡回企画課企画政策室	陸上自衛隊第5旅団司令部・第3部防衛班
	9月 第20回	二	北海道電力帯広支店企画経営G課長	陸上自衛隊の雌阿寒岳噴火に対する災害対処計画
	10月 第21回	高橋 章	北海道電力帯広支店企画経営G課長	ほくでの防災対策「有珠山噴火の対応事例」
	11月 第22回	柏木 浩二	NTT東日本・北海道帯広支店説教部門	NTTの災害対策について
	12月 第23回	本別警察署警備係災害担当	災害等緊急事態と警察活動について	
H22	1月 第24回	伊藤 聰	NPO環境防災総合政策研究機構 主任研究員	人と災害～正常性バイアス～
	2月 第25回	松尾 一郎	NPO環境防災総合政策研究機構 理事	住民防災組織が災害に活きた！
	3月 第26回	新谷 賢	北海道大学 名誉教授	住民自立で安全地域（まち）づくりを
	4月 第27回	藤間 豊	室蘭工業大学 名誉教授	足寄町の決水ハザードマップ
	5月 第28回	黒木 幹男	元北海道大学准教授	洪水時の避難について
	6月 第29回	高橋 清	北見工業大学 准教授	防災力向上のための心の構え
	7月 第30回	高橋 清	北見工業大学 准教授	おこうを振り払う少しの勇気とちょっとしたおせっかい
	8月 第31回	宇井 忠英	北海道大学 名誉教授	自然災害への備えを身に付ける
	9月 第32回	伊藤 聰	NPO環境防災総合政策研究機構 主任研究員	家族で安心して暮らすために
	10月 第33回	丸谷 知己	北海道大学 教授	火山泥流への備え
	11月 第34回	加村 邦茂	NPO環境防災総合政策研究機構 主任研究員	災害と災害時要援護者
	12月 第35回	境 智洋	北海道教育大学附属新川校 教授	学校における防災教育の重要性
H23	1月 第36回	伊藤 聰	NPO環境防災総合政策研究機構 主任研究員	DIG～災害イメージ～へのすすめ
	2月 第37回	和田 東治	北海道教育大学附属新川校 教授	雌阿寒岳の自然を感じて防災を考える
	3月 第38回	松尾 一郎	NPO環境防災総合政策研究機構 理事	約300年ぶりに鷲島山「新燃岳」が爆発的噴火！

平成 22 年度までの原稿執筆者およびテーマ一覧



平成 22 年度 第 1 回運営委員会

平成 22 年度 活動報告（関西支部）

小中学校における出前授業

今年度引き受けた出前授業は全て関西地区の小学6年生のクラスであった。理科では火山噴火や地震と津波をテーマに実験を交えた授業を行った。総合学習の時間枠で地震や洪水についての防災学習を行った学校もある。合計約600名が授業に出席した。授業日・実施校・題目は次の通りである。

実施日付	実施した学校	題目
2010.10.5	兵庫県宝塚市立西山小学校	地震と噴火の仕組み
2010.11.4	大阪府茨木市中条小学校	地震による変化
2010.11.8	大阪府茨木市郡山小学校	火山活動による変化
2010.11.8	大阪府茨木市郡山小学校	地震による変化
2010.11.9	大阪府吹田市佐井寺小学校	地震と噴火の仕組み
2010.11.15	大阪市立川北小学校	火山活動による変化
2010.11.16	大阪府茨木市中条小学校	火山活動による変化
2010.11.18	大阪府枚方市山之上小学校	火山活動による変化
2010.11.18	大阪府枚方市山之上小学校	地震による変化
2010.11.22	大阪市立川北小学校	地震による変化
2010.12.3	兵庫県宝塚市立丸橋小学校	地震と噴火の仕組み
2010.12.7	大阪市立生江小学校	地震と噴火の仕組み
2010.12.13	大阪市立姫島小学校	地震と噴火の仕組み
2011.1.14	兵庫県宝塚市立西山小学校	総合学習：自然災害に備える



11/16 茨木市中条小学校校庭で行った噴火の模擬実験

平成 22 年度 活動報告（関西支部）

地域住民・市民団体・企業等を対象とした

啓発講座と野外学習行事

行政機関・町内会・市民団体・企業など多様な相手先からの依頼で地震とそれに伴う津波・火山活動に関する防災啓発講座や野外学習行事の講師を務めた。また、火山災害に関わる国際会議に出席してCeMIIの樽前山関連業務についての講演を行った。以上を一括した今年度の実施実績は次の通りである。

実施日付	実施団体・会合名称など	演題・内容など
2010.5.9	宝梅クラブ（宝塚市）	来るべき地震に備えて
2010.5.20	国際理解ゼミナール（宝塚市）	世界の自然(1)：地震と津波
2010.6.3	Cities on Volcanoes 6 at Tenerife, Canary Islands, Spain	Education and outreach activities for reducing volcanic risk at Tarumae Volcano, Hokkaido, Japan
2010.6.24	北海道胆振教育局初任者研修	野外実習：樽前山の噴火履歴を探る
2010.8.16	苫小牧市教育研究会理科部会	野外実習：樽前山の噴火履歴を探る
2010.8.18-21	関西理科教員グループ	野外実習：有珠山・樽前山
2010.9.1	伊達市教育研究会理科部会	有珠山とその噴火を知る
2010.9.2-3	全国火山系博物館協議会	現地見学：有珠山・樽前山
2010.9.6-14	米国の火山と火山災害を学ぶ会	海外火山研修：セントヘレンズ・クレーターレーク
2010.10.17	環境省洞爺湖ビジターセンター	野外見学会：有珠四十三山
2010.10.21	国際理解ゼミナール（宝塚市）	世界の自然(2)：火山
2010.10.24	シニア自然大学つちのこ探検隊	野外見学会：六甲山地の生い立ちを探る
2010.11.17	JICA 兵庫中米防災研修コース	火山災害の軽減
2010.11.29	王子製紙苫小牧工場職員研修	樽前山の噴火と直下型地震に備えて
2011.1.15	旭化成ヘーベリアン俱楽部	来るべき地震に備えて
2011.2.4	山梨県環境科学研究所フォーラム「富士山：自然公園と環境保全」	北海道有珠火山のビジターセンター
2011.2.9	北海道苫小牧市市民防災講座	樽前山の噴火に備えて

